



私の仕事
komachi's point

ベテラン職員と一緒に、コンクリート上に墨を出す。「今は職長さんがいないと、自分1人でできないことが多い。1人でできることはちゃんとこなせるようになりたいですね」

「墨を出す」という仕事

わかりやすく言えば、墨出工の仕事とは、更地や打ったばかりのコンクリートなどまだ何も描かれていない場所に、実寸大の設計図を引くようなものだ。杭打ちも、型枠も、間仕切り壁も、すべての施工が墨出工の引いた基準墨や返り墨に従って行われる。基準線が引かれていなければ、どんな工事も始めることができないし、もし基準線が間違っていたらその後の施工精度全体に狂いが生じて、最悪の場合大幅な手直しが必要になってしまう。

高校の先輩に誘われ、単身上京

あまり表に出ることはないが、実は重大な責務を負う墨出工・前川瑞貴は、一九九三（平成五年）年、岩手県生まれ。地元工業高校では建築デザイン系の学科で設計を学んでいたが、一足先に東京で就職していた高校の先輩女性から現在の勤務先である株田中建設工業を紹介してもらい、入社に至った。

「もともと高校を卒業したら一人暮らしをしよう、と考えてたんです。そこへ東京にいる女性の先輩から当社を紹介されて、担任の先生にも相談して、これはいいチャンスだと思って決めました。でも、その先輩はその後事務の仕事に異動してしまって…。一緒に現場に出られると思っていたのでけっこうショックでした（笑）」

株田中建設工業は、多数の測量技師を抱える、建築測量業界では名の知れた存在だが、「高校で主に勉強したのは、図面を写すことや、自分でコンセプトを決めて一から設計することでした。墨出しは授業で一回やったくらいで、ほぼゼロからのスタートでした」

就職前に会社を訪問した際、現場で仕事だった先輩から電話をもらった。

「その時は、やっぱり『きつい仕事だよ』と。でも私もまだ高校生で、どれくらいきついのか想像もできず、勧められるままに入ってしまった。工事現場だから男性の方ばかりで、ちょっと怖そうだなとは思ってましたけど、一年目で担当した現場は優しい方が多かったので、だいぶ印象が変わりました」

完成した現場を見て

前川の入社一年目、最初に赴いた現場は、小学校の建設現場だった。

「更地の状態から鉄骨が立って、壁を建て込んで、屋上ができていくところまで一連でやらせてもらいました。でも墨出しなので、完成まではいられないんですよ。仕上げ工事の途中からあとの主な作業は内装屋さんの仕事になるので、抜けなきゃならない」

墨出しとは、いわば他の職種が精度良く仕事をするための準備作業。通常、内装工事の墨出しが終わったら、建物の完成を見ることなく次

輝け!

けんせつ小町

墨出工

前川瑞貴

(仮称)西濃運輸株
新東京支店新築工事事務所



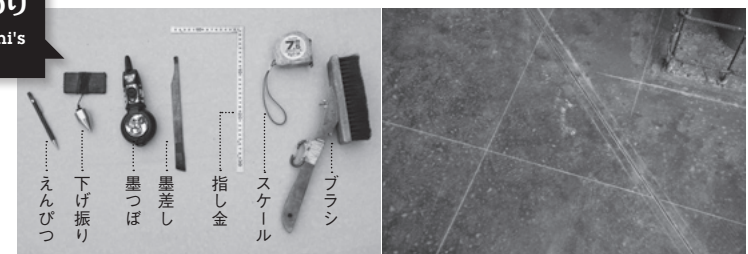
「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性技術者・技能者の愛称です。

「墨出し」とはすべての工事、すべての作業の基準となる工程であり、これが完了していないと他職はほとんど仕事に着手できないとも言える、重要な職種だ。今回紹介するけんせつ小町は、大規模な建築現場でこの責任ある立場を任されている、弱冠21歳の墨出工。その活躍ぶり取材した。





私の
こだわり
komachi's
point



左／墨つばはもちろん、墨差しや下げ振り、墨を出す場所を掃除するブラシなど、墨出工の道具の数々を常に持ち歩く。
右／墨にも「基準墨」「返り墨」などさまざまな種類、役目がある。

今はどこの現場も人手が足りなくて大変。
女性でも、頑張ればどんな仕事もできるので、
どんどん入ってきてほしい

私の
仲間
komachi's
point



「当社も現在は女性を毎年採用しているので、近い将来、現場でいっしょに仕事ができたらうれしいなと思いますし、みんなと同じようにがんばってるんだなって励みになります」



上／左から、(株)田中建設工業・筑井職長、前川、五洋建設(株)・菊谷工事所長。「高校を出て、女性が少ない職場で3年も続いている。職長さんのサポートあってのものだと思います」(菊谷工事所長)
下／西濃運輸(株)で最大規模となる物流拠点の建設現場。雨さえ降らなければ毎日のようにコンクリートの打設を行い、その都度墨を出すことになる。

の現場に移らなければならない。
「数カ月後に帰る途中、完成した学校を外から見る事ができて…小さな子供たちが通っているのを見て、何だか『おおーっ』て思っちゃいました(笑)」
自分が墨を出した建物が無事完成し、それが実際に人々の役に立っていることの喜び。「建設業」というモノづくりに関わっていることを実感する瞬間だった。
「今でもたまにその小学校の前を通りますが、やっぱりうれしくなっちゃいますね」

大規模現場ならではの墨出っとは

現在、前川が勤務する現場では、大型の物流倉庫を建設中。建築面積は一八、〇〇〇平方メートル、延床面積は七三、〇〇〇平方メートルに上るため、一日のコンクリート打設面積は広範囲に及ぶ。打設の翌日は、朝六時に出勤して各所の寸法を出すことが墨出工に課せられている。
「他の職人さんたちも七時四十五分には現場に来て、八時の朝礼が終わったらすぐに仕事を始めます。その時に墨が出ていないと作業にならないので。たまには待ってもらおうようなこともあるんですけどね」
素早く、正確に。言葉にすれば簡単に聞こえるが、他のすべての作業の基準となる「墨」を時間に追われながら測るといのはなかなか重圧のかかる状況だ。しかも、そこには「絶対に間違えてはならない」という厳密な精度も求められる。

「でもみんな和やかというか、穏やかな人が多くて、そこは助かりました。当社以外にもう一社墨出し屋さんが入ってますけど、何かあれば話し合ったりしています」
もちろん墨を出したら終わり、ということもなく、他の業者から呼び出されてあちこち作業現場に駆けつけることもしばしばだ。特に今回の現場は倉庫ということもあって床を大事に扱っており、墨ではなく白いチョークなどで線を引いているため、何かでこすれたりすると読み取りづらくなってしまう。

komachi MEMO

現場で催された親睦会のジャンケン大会で優勝し、一躍有名人になった前川。何と200人の頂点に立ち、商品までゲットした。「あれで、『ジャンケンで勝った子か』みたいみんなに覚えてもらえましたね(笑)」



profile

まえかわ・みずき◎1993
(平成5)年、岩手県生まれ。
地元工業高校を卒業後、
2011(平成23)年に(株)田
中建設工業に入社。墨出工
として複数の現場を経験
後、2014(平成26)年7月よ
り現在の(仮称)西濃運輸
(株)新東京支店新築工事現
場に勤務し、建築測量業務
全般を担当。

「墨がよくわからない、と質問があれば図面を持って説明し、線が消えかけていたらもう一度墨出しをすることもあります」

「足を引っ張りたくない」という思い

「心がけているのは、とにかく足手まといにならないように、ということ。ミスしないことが一番ですが、もしも間違えてしまったら正直に話して、すぐにやり直しをさせてもらう。当たり前のことなんですけど、そこは気をつけます」

五洋建設(株)・菊谷洋三工務所長は、この現場ならではの墨出しの大変さを理解している一人だ。

「今は建物もだいぶ建ち上がってコンクリートに墨を出してはいますが、最初は土の上の何もないところ、土台になる部分に打ち込む杭の位置から出してもらっています。その杭が三〇〇本くらい。穴を掘っているところもあるので、毎日泥だらけになりながら頑張ってくれましたよ」

測量にも力仕事はあり、重い荷物を先輩に運んでもらう心苦しさを感じることもあるが、

「他社にも女性が増えてきているし、がんばればできない仕事はないと思います。ここみたくにきれいな現場も増えていきますし、どんな人でも大歓迎なので、是非入ってきてもらいたいですね」